

## 子どもたちに付けてあげたい力

佐渡総合教育センター所長 羽二生 裕

これからの社会の急激な変化（超高齢化社会の到来やICTの発展、更にはAIの進化など）により、日本社会は『第四次産業革命』を迎えつつあると言われています。

そのような中で、私たちはこれから10年先、20年先を生きていく子どもたちに、どのような力を付けていかなければいけないのか……。当然、日々の授業や学校の教育活動の中で育てる力と考えています。

- (1) 「人を大切にする力」どのような時代や社会になっても、自分の周りにいる人（友達や家族など）を大切にする温かい心や思いやりが何より大切です。
- (2) 「自分の考えをもつ力」周りの人の意見を聞き、自分の考えをもつ「思考力」や「判断力」を身に付け育てることが大切です。
- (3) 「自分を表現する力」自分の思いや考えがまとまったら、周りの人に伝える表現力（コミュニケーション力）を身に付け育てることが大切です。また、これからは自分の考えを「発信する力」も大切になります。
- (4) 「チャレンジする力」これからの時代は、社会の変化が激しく、今までの成功体験が通用しなくなりつつあると言われています。自分で考え創造し、粘り強くやり抜く力を今から身に付けていく必要があります。

ここに述べた4つの力は、目に見える学力とは違った一面があるかもしれませんが、これからの時代を生き抜く子どもたちに、授業や学校の教育活動の中で身に付けさせてあげたい「4つの社会を生き抜く力」と考えています。

## 主体的に改善する力

下越教育事務所 指導主事 森 和人

### 1 主体的な中学校区の連携強化

昨年度まで提出・報告を課していた「中学校区課題解決プラン」は、今年度より求めなくなりました。連携の強化は、中学校区の主体性に委ねられたわけです。全中学校区の訪問を終えて驚きました。連携をさらに強化させた中学校区がいくつかあったからです。

「全教員が参画する体制とPDCAの運営」「全員参加の授業公開と協議」「計画的な授業交流」「積極的な児童生徒の共同活動の実施」等、主体的な取組をされていました。

協議をしている様子が明るく、学校間の垣根を超えて、同僚性が高まっていると感じました。

### 2 教員等育成指標の活用

約1年前、新潟県はキャリアステージの区分ごとに、教員等育成指標を示しました。ご自分のステージと到達目標を確認しましたでしょうか。5年目までは基礎形成期、12年目までは能力伸長期、13年目以降は能力充実期です。

教員の大量退職・大量採用の時代を迎える中、確実に自分のキャリアに合った資質・能力を身に付けていくことが求められます。教員として成長するには、自分の姿や取組を客観的に評価し、改善する力が必要です。

教諭の方は、「学習指導・生徒指導・学校運営」の視点で示されています。必要な資質・能力を把握し、主体的に向上を目指してください。管理職の方は、校長指標を参考にしてください。

<キャリアステージの区分>



## コミュニティ・スクール導入で 学校も地域も元気に

教育指導主事 本多 アヤ子

地域住民と保護者、学校が連携・協働して学校運営を行うコミュニティ・スクールの取組が今年度から佐渡市で始まりました。今年度は、八幡小学校、新穂中学校区（新穂中、新穂小、行谷小）の4校をモデル校として取組を進め、八幡小学校学校運営協議会、新穂中学校区学校運営協議会がスタートしました。学校運営協議会は、地域の子どもをどう育てるか熟議する場です。「学校へ地域の人たちがどんどん入っていけるようにしたい。地域の人とかかわる学校は元気だ。」「子どもを未来の佐渡とつながる地域の人として見たい。」など、さまざまな想いがつながる場です。

学校運営協議会を充実したものにするためには、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターや学校運営協議会の運営を担うCSディレクター（コミュニティ・スクールディレクター）の働きが不可欠です。

子どもたちの将来のために、そして、明るく元気な地域を創るために、地域と学校が共通の目的をもって協力し合う関係を築いていくことが大切です。コミュニティ・スクールの取組が学校教育の基本方針である

「佐渡を知り、愛し、誇りとし、社会的自立を目指す人づくりの推進」につながることを願います。



<12/12 新穂中学校区学校運営協議会>

## 1、2学期を振り返って

教育指導主事 山岸 善晴

年度	29	30
交通 轍	4	7
傷 害	22	41
非 行	19	8
いじめ	22	41
疾 病	4	14
虐 待	2	6
その他	35	36
合計	108	153

左表は、4月から12月までの間に市教委に報告のあった事故報告件数を、内容別に昨年度の同期と比較したものです。

特徴的な三つの内容を分析すると、**傷害**は業間、昼休みや放課後での遊び中に起きたけがが5割を占めています。

**いじめ**は1学期に前年度比+14件と急増しており、年度始めの人間関係づくりが影響し、その後のトラブルの誘因にもなっているようです。中学校1年では、小学校3～6年時にあったトラブルが遠因・遺恨になっていることが多く、子ども理解の重要性を教えています。**疾病**は猛暑による熱中症の増加が原因でした。

年度始めの当たよりで「三つのお願い」をしました。

- 校地校舎内に職員の死角をつくらない。
- 子どもの活動場所に職員を目を置く。
- 家庭との信頼関係を築く。

自校の一年を振り返り、インシデント、アクシデント、トラブルの解決や対応等に当たって、これらの観点での検証・評価はどうだったでしょうか。

今回の事故データは、異変の知覚、初期対応、子ども理解、再発防止対応等と問題解決への一連の過程が形式化していないかの検証にもなると思います。

特に、「家庭との信頼関係」の具体策は多種多様、学校によっても特色ある方法を実践しています。ただ、その内容が「子ども目線・親目線」になっているのか、学校側の自己満足になってないか等を教師全員又は外部委員を交えて評価する必要があると思います。子どもは教師より親を観ている？

## 「佐渡の魅力を未来につなげよう」発表会 ～1月19日(土) 於:アミューズメント佐渡～

今年は、幼稚園、小中学校、高等学校等11団体の園児・児童生徒が、芸能や学習の成果を発表しました。どの発表も、佐渡への愛着や誇り、将来への夢や希望が伝わってくるすばらしい内容でした。

さて、8回目を迎えた本発表会は、今回をもって終了いたします。今後、芸能に関わる発表は、佐渡文化財団の事業に移行します。これまで、発表会にご協力いただいた園・学校関係者の皆様に感謝申し上げます。

